［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日 平成19年 4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	０８７２００１１７７
法人名	日新興業株式会社
事業所名	グループホーム　自然の家
所在地 （電話番号）	茨城県つくば市観音台1－11－1 （電　話）029－839－4165

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4－9－3　D101		
訪問調査日	平成19年4月15日	評価確定日	平成19年10月29日

【情報提供票より】（平成19年3月5日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17　年　3　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　2　人，非常勤　7　人，常勤換算　7．6　人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋　造り	
	1階 建ての　1 階　～　1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	48,000～53,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円			

（4）入居者の概要

入居者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	4	名
要介護3		1　名	要介護4	4	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	85 歳	最低　73 歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「自然の家」は閑静な住宅街の中に立地しており、地域の方達との自然な交流を図りやすい環境にある。管理者を中心に職員は自分達の目指すグループホーム像を明確に持っていて、それに向かって日々着実に努力している様子が窺える。入居者は明るい自由な雰囲気で、自分の考えや思いを多くの言葉で表現しており、自分のペースで自分らしい暮らしが営めていることを表していると言える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の外部評価では、共用空間の居心地の良さという点において、生活の中での不快な音が多いという指摘を受け、認知症の方にとって、音や光による刺激が生活にどのように影響するのかを職員間で話し合い、食事の支度等でやむをえず大きな音が出る際には、その都度声かけをおこなうよう配慮した取り組みを行っている。 今回の自己評価に対しては、職員全員で評価票への記載内容を確認し、評価を通してサービスの質を向上させたいという認識を持って取り組みがされた。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 2ヶ月に1度の割合で運営推進会議を開催している。会議の中では入居者の暮しの様子やケアの実際、評価への取り組みの状況について報告し、検討された内容は職員会議を通して職員に伝わり、直ちに実際のケアに反映させられるよう配慮した取り組みがなされている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族が来所した際に個別に話しをして意見や要望などを聞くように配慮している。またホーム側に出しにくい要望や意見は、無記名のアンケート等を通して拾い上げるようにしている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域の自治会に加入し、地域の一員として自治会の活動に参加したり、ホームの納涼祭や施設見学会等を通して、地域の方達と自然な形で交流できるような取り組みがされている。

2. 評 価 結 果 （ 詳 細 ）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人が当たり前の暮しをしていくことを支援するというホームの理念はスタッフ間の話し合いで決められたものである。		現時点でスタッフはホームの理念をとても良く理解し、それを的確に日々の介護に反映させている。その理念が入居者や地域の方達のニーズの変化に応じ、適宜見直し、作り変えていくことでさらに浸透が深まると感じる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は入居者の目につく場所に、わかりやすい言葉で掲げられていている。また地域に対しても、ホームだよりを回覧板で回す等、入居者と地域に向けたホームの理念の啓発への取り組みは充分行えている。さらに、スタッフは入居者に対し、常に理念を意識した関わりができている。		理念の共有という点では、充分な取り組みができている。今後もいままで同様ホームの生活の中のさまざまな場面で、理念を具体化した取り組みを継続されたい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入り、自治会の行事等に参加したり、ホームの納涼祭や施設説明会等を通して地域の方達との交流は図れている。また入居者が散歩等で外出した際に、挨拶を交わしたり会話を楽しんだり等の自然な交流は日常的にされている。		現在行われている取り組みを今後も継続されたい。そのことが地域にとって高齢者に関する情報の発信や介護相談の窓口となる等、地域の中での役割を担っていけるよう願う。
k					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に、職員は評価を通してサービスの質の向上に努めたいという意識を強く持っている。今回の自己評価票の記入も職員全員で、記載内容を確認し、話合いのもとで作成され、日々の業務や入居者への関わりのあり方の見直し・再確認につながった。		現在の評価に対する取り組みは効果的なものであると思えるので、今後もこうした取り組みをぜひ継続してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、地域の方や入居者の家族の方にホームの活動の報告や意見交換を行い、そこでの意見や感想を日常のケアに活かせるよう努力をしている。		現在の運営推進会議へ包括支援センターや行政からも参加してもらえるように、継続的な働きかけをされたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	つくば市のグループホーム連絡協議会を通して、事業所同士協力して、市との連携を図れるように働きかけを行っている。さらに、市の窓口にホームのパンフレットを置くことで、ホームの活動についてPRしている。		
の					
7	14	○家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の家族に対しては、毎月、入居者の健康状態と暮しの様子を、写真等を同封した手紙で報告を行っている。金銭管理状況の報告も一緒に郵送で行っている。さらに、家族の面会時には、担当者が入居者の日常生活の様子と健康状態を個別に伝え、家族の思いを聴くようにしている。		現在のような、入居者の家族との、きめ細やかなやりとりは今後も継続されたい。そのことが訪問回数の少ない家族に対して当ホームのよりよいケアが伝わる結果となるよう願う。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情受付機関とホームでの苦情対応担当者について明記され、契約の際、入居者と家族に説明している。さらに、1年に2回入居者の家族を対象に無記名アンケートを行い、意見や不満、苦情を拾い上げるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設し2年間の間に常勤職員の離職はなく、同じ職員で安定した関わりができている。今後職員の異動や離職が発生した場合は、早めに新しい職員を入職させて、しばらく退職する職員と一緒に動いてもらい、入居者が職員の交代を不安なく受け入れられるような体制作りをしたいと考えている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員に研修を受けることを勧めたり、職員が自ら参加したい研修があれば、管理者に申し出て研修に行くように努力している。また、ホーム内でも入居者に対しミニ勉強会を行う等、意欲的に職員間で学ぼうとする取り組みがなされている。	○	研修を年間計画のもとで位置づけて、職員の段階に応じた計画的な研修への取り組みを期待する。またホーム内の研修も、一年間なり半年なりで学習のテーマを決めて、目標を共有したうえで、計画的に行われるとさらに充実した内容の効果的な研修になると考える。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市のグループホーム連絡協議会の集まりで、情報交換、事例検討会などを行っている。他のグループホームの取り組みの状況を聞いて、良いよいところを取り入れてケアの質を高めたいと考えている。		今後も他のグループホームとの情報の交換、事例検討などを継続し、地域のグループホームとともに質が高められることを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前に、併設のデイサービスに通所していただき、徐々にグループホームの方への行き来を多くしていき、少しづつグループホームに慣れていただく等、段階を踏んで安心して入居できるようにに対応している。遠方の方などはホームの職員が何度か訪問するなど個別に対応している。	○	少しづつ馴染んだ状態になった上で入居となるように、個別に応じたきめ細かな対応ができている。その入居に至るまでの経過も、入居後の生活の上では重要な資料となるので、なるべく詳細な記録として残しておくことが望ましい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に対し、入居者の気持ちを尊重した態度で関わっている。また職員は、入居者から生活の知恵を教えられたり、若い職員は入居者に育てていただいているように感じると言う。このように相互に支え合う良い関係作りができている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いを汲むように配慮している。例えば、その日どのように暮らしたいのかは入居者各個人の意向を尊重し、食事のメニュー等も意見を取り入れるようにしている。自分の希望を言うのが困難な方には時間をとって個別に話したり、家族と話したりして本人の希望を把握できるように努力している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、担当者が中心となり、プラン会議等で話し合いの後作成される。入居者と家族にも内容の確認はしていただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他に、入居者の状態の変化に応じて会議等で話し合い、適宜見直しを行っている。	○	今後は、定期的な見直しの期間を1ヶ月～3ヶ月位おきとして、さらにモニタリングの詳細な記録に加えて、再アセスメントの記録を残す等、介護計画の見直しの過程を、入居者や家族にもわかりやすい内容で記録しておく必要があると考える。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族、地域の方達のニーズを把握し、先々は「通う」、「泊まる」等の機能もサービスとして取り入れたいと考えている。現時点ではその準備を少しづつ始めている段階である。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく入居以前からの主治医に継続して受診をすることができるように支援している。さらに、必要に応じて通院や往診等で、適切な医療が受けられるように取り組んでいる。		入居者や家族のニーズの変化に応じ、入居者や家族が納得できる通院のあり方、受診結果の報告のあり方について柔軟な対応ができるように検討し、体制作り等のさらなる取り組みを期待する。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の対応について、話合いをしている。現時点では看取りに関しては、簡単なマニュアルは作成されているが体制作りは検討中である。		入居者の意向にそった対応ができるような体制作りが早く整うことを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 また					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の、入居者一人ひとりに対するプライバシーの尊重という点では、個人の居室の出入りの際の声かけや、入居者に対する呼び方、声かけ等注意した関わりができている。また、ホームだよりに写真や名前を載せる場合の本人と家族の同意の文書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念として掲げているように、その人の当たり前の暮しを支えるということで、入居者が自分のペースで暮したいように暮すことを支援するため、生活上の日課は決めていない。しかし生活パターンを整えるという意味で、午前中の散歩、日光浴はなるべく声かけをして行うようにしている。		今後も入居者それぞれの生活パターンを大切にした関わりはぜひ継続されたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けで、入居者が自分の役割として行うことができている。また入居者と職員で会話を楽しみながら食事を摂り、家庭的な雰囲気のもと食事の支援ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間を特に設定せずに、入居者の希望を尊重し、毎日、どの時間帯でも入浴できるように支援している。また、入浴の拒否がある場合は、清拭等で対応し、個別的な関わりができている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの楽しみや気晴らし、行える役割などを、アセスメントを通して把握し、それを生活の中で行えるように、場面作りや場所作りの配慮を行っている。		はさみや針は職員が保管されているので、裁縫が始まったら意欲的に取り組めるような関わりを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、近くの公園や買い物、図書館など、入居者が自分で選び、自由な外出支援ができている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の各居室、共有の空間、玄関等、ホーム内は日中は一切施錠されていない。玄関の扉に鈴をつけているため、玄関の開閉時には職員が気が付き、入居者が外出した際に直ぐに職員も付き添える。また、セコムを導入し防犯・安全への取り組みを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路や避難の方法をマニュアルとして作成している。また予告なしの避難訓練を頻回に行っている。警察署や消防署にも災害の際の協力の要請を行っている。		災害に向けての取り組みは充分行えている。今後はさらに災害時に自治会の協力を得られるように取り組まれたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食と夕食分の食材を外注業者に宅配で依頼している。そのため、全体的には入居者の食事における栄養摂取の把握はしやすくなっている。入居者の健康状態や好みに応じて、調理方法は適宜変更し、さらに個別に応じて量や硬さは工夫している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間としてのリビングにはそれぞれが自由に過ごせるように、ソファーが配置されている。さらにリビングの脇には和室もあり、自由に居心地良く過ごせる空間が確保されている。また、ホーム内のさまざな場所に入居者が生けた季節の草花が飾られている。職員が食事の準備等で大きな音を出す際には、その都度入居者に声かけをして、音に対する配慮もされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や写真、置物等を持ち込んで、その人らしい居室作りがなされている。	○	居室内に家具を置くことで危険な状況となる利用者に対して、馴染みの物を活用して、そこが自分の居場所であり、安心できる自分の居室という意識が生まれてくるようなさまざまな工夫を駆使している途上ととらえた。今後に期待したい。